

令和元年度 姉妹校等留学プログラム

●学校・団体名/研修名（派遣高校生数）

日本大学高等学校/高等学校 2 年生スーパーグローバルクラス海外研修（2 名）

●渡航先

国/都市：ニュージーランド/オークランド市

外国の高校：ツアカウ高校

●渡航期間

2019 年 8 月 19 日～2019 年 9 月 7 日

T・Mさん ※本プログラムを含めて、約3か月のターム留学

〈現地での過ごし方〉

ニュージーランドは日本と季節が逆なので、私が滞在した時期はかなり寒かったです。

また、ほとんどの家が、馬、羊、ヤギ、牛、鶏などの動物を飼っていました。

1 週間経って、学校が始まりました。初日の、歓迎の儀式では、ニュージーランドの先住民族マオリの子達が、民族舞踊“ハカ”を披露してくれました。

最初はマオリの子達が話しかけてくれて、私の方も自己紹介したり色々質問したりしているうちに、友達ができました。バディもマオリの子で、私に学校のことをいろいろと教えてくれました。

本格的に授業が始まると、日本の学校との違いの多さに驚きました。どの教科も生徒主体で、まずは自分が動き、時々先生に質問したり、手伝ってもらったりするという授業が多かったです。そのため、時に失敗しても、何がいけなかったか自分で考えて、次はこれをしてみよう、と次回に活かしていく努力をしました。何かに集中して取り組み、それを成し遂げた時はとても嬉しかったです。

（Product Design の授業ではニュージーランドの鳥“kiwi”の箱を作りました。）

1 ヶ月ほど経って、カルチャーフェスティバルというイベントがありました。私も参加させていただき、学校の生徒の皆や先生方が沢山集まる中で、日本のソーラン節を披露しました。イベントが終わってから嬉しかったのは、いつの間にか学校でソーラン節が流行っていたことです。みんな「どっこいしょ～どっこいしょ～」と真似してくれて、その後もお昼休みなどを使って人を集めて、振りを教えたりしました。

その数日後、ホストファミリーのチェンジを決めました。（英語がなかなか話せなかったからです）新しいホームステイ先に移ると、いっきに環境が変わりました。ホストファミリーには、なるべく沢山話しかけ、自分の単語力で言いたいことを伝えようと頑張りました。向こうも一生懸命聞き取ろうとしてくれたので、とても嬉しかったです。アクセシ

トを正してくれたり、日本のことについて沢山質問してくれたりしたおかげで、いつの間にか英語で話す時間がとても楽しくなりました。そしてそこから圧倒的に会話量が増えていきました。知らない単語や表現はその日のうちに調べ、使ってみるにより、ホストファミリーの話も少しずつ聞き取れるようになっていきました。

ホストファミリーは、週末様々なところに連れて行ってくれ、ニュージーランドの文化や風景を一緒に楽しみました。クラスの皆とも、様々なところへ足を運び、ニュージーランドについて、またマオリ文化について沢山のことを学びました。

〈 留学を通して学んだこと〉

まずは、学校についてです。日本で私が通っている学校では通常7時間なのに対し、留学中に私が通った学校は5時間授業でした。それに加え、休み時間はインターバル(30分)とお昼休み(1時間)の2回だったので、とても過ごしやすかったです。日本では授業中は私語禁止で、1時間先生が話し続け、生徒はそれをノートにとることが多いと思います。しかし向こうの学校では、みんな自由に話したり、音楽を聞いたりしていました。これらの日本との違いは私にとって良いカルチャーショックで、そこから様々なことを学びました。

ニュージーランドで授業を受けていて、日本の学校のようにストレスが溜まることはほとんどありませんでした

最初はそれぞれがやりたいこと興味を持ったことに取り組む



本気で熱中するものを見つける



将来の夢や就きたい職業について考え易くなる

また、先生と生徒もそうですが、生徒同士、学年の壁を超えてとても仲が良かったです。その中で、一際目立っていたのはマオリの存在でした。

学校の掲示物や看板が英語とマオリ語になっていたり、マオリの授業があったり、集会でハカのパフォーマンスがあったり、ハカのグループは毎週末学校に寝泊まりして、コンテストのために練習したりと、マオリの文化は至る所で見られ、確かに尊重されていました。

また、留学を通して感じたことは、どんなに常識はずれなことでも一度受け入れてみるべきだということです。自分の「普通」を押し付けずに、こんな文化、考え方もあるのかと、一度受け入れてみることは、異文化理解の基本だと思いました。そしてその後に、自分はどうか、どうありたいかを考えて行動するようにしました。

今回私は、数え切れないくらい多くの壁にぶつかりました。初めは、問題解決力を向上させるために、どんな問題も自分で解決するべきだ、と考えていましたが、少し時間が経ってエージェントさんに一度相談してみて、自分では思いつかなかったアドバイスを沢山も

らったことによって、自分だけで何でも解決しようとするのは、正しくないことに気が付きました。その時から少しでも悩んだらすぐ誰かに相談するように心がけました。

留学を通して沢山のの人に沢山のアドバイスを頂き、様々な考え方を学び、何か問題が起きててもより良い判断、考え方ができるようになりました。結果的にこれは自分の問題解決力の向上に繋がりました。

沢山悩んで、沢山泣いて、沢山の成長した約3ヶ月間。一生忘れることのできない宝物です。留学で培った英語力は、キープ、そして伸ばしていけるよう努力します。また、留学を通しての経験や今回学んだ事を、今後の人生に生かしていきます。

この度は、私の留学を支援していただき、本当にありがとうございました。これからも、留学の成果を広く発表していくと共に、国際社会で活躍していくため日々精進して参ります。

H・Mさん

私はニュージーランド研修の間、ツアカウ高校という学校に通いました。ツアカウ高校では生徒が受けたい授業を選んで時間割を組みます。それが日本とは異なっている点で、生徒はとても意欲的に授業を受けていると感じました。私たちにはバディが付いてくれて、そのバディの授業を受けました。バディはとても優しく、私たちをいつも気遣ってくれたので、居心地が良く、すぐに学校に馴染むことができました。ツアカウ高校にはさまざまな人種の生徒や先生がいてとても賑やかでした。マオリの人たちは特に賑やかな性格で、彼らと話すのはとても楽しいひと時でした。はじめて学校に通った日にマオリの生徒、先生方が伝統的な儀式で私たちを迎え入れてくれました。特に、マオリ族の民族舞踊であるハカを見たときに、その迫力に圧倒されました。現地特有の文化に触れることができたのは今回の研修の最も大きな財産だと言うことができると思います。また、現地校での生活の中で感じたことはもっとしっかりと自分の芯を持たなければいけないということです。ニュージーランドに限らず外国の人々は子供であってもそれができていると思います。自分の意見を持つことはもちろん、将来自分がなりたい姿や今自分に必要なことを日頃から考える必要があると感じました。そうしないと日々時間が過ぎていくのを待っているだけで夢や目標を達成できないと感じました。今回の経験を今後生かしていくためには今まで以上に積極的に行動していく必要があると思います。以上のように様々な発見や経験ができた今回の研修はとても素晴らしいものでした。